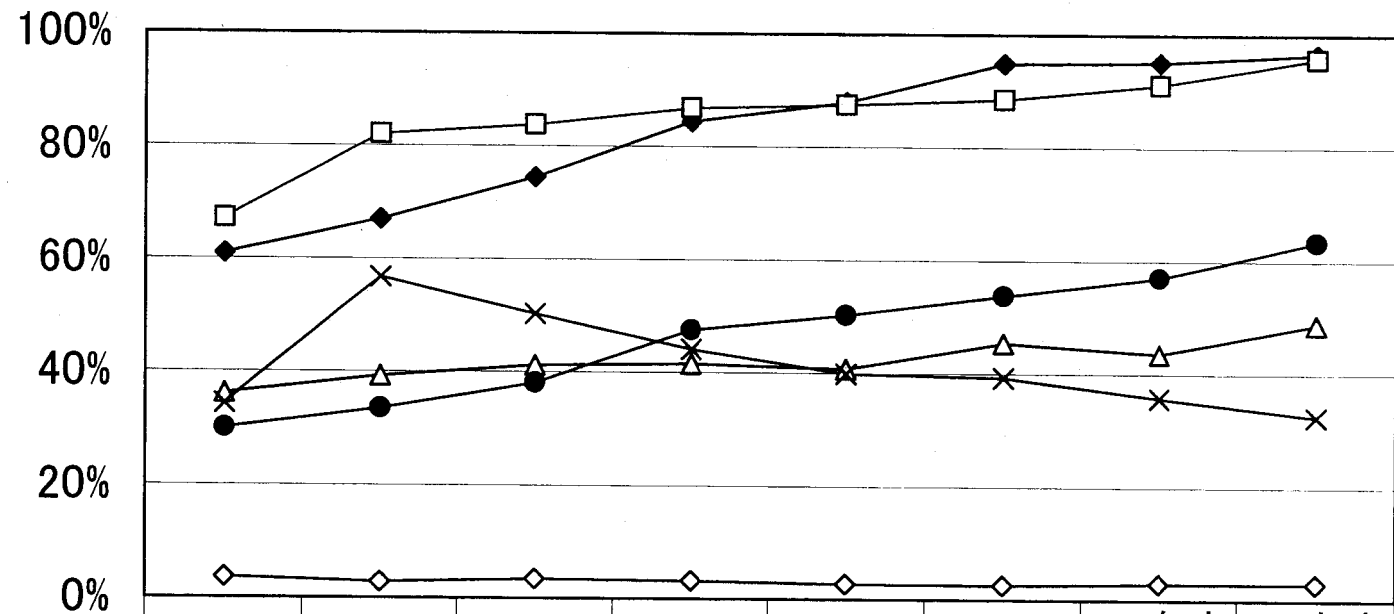


主な血漿分画製剤の自給率の推移（供給量ベース）



	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度 (見込)	H19年度 (見込)
◆ 乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	60.9%	67.0%	74.5%	84.5%	88.0%	94.9%	95.1%	96.6%
□ 人免疫グロブリン	67.1%	82.1%	83.8%	86.9%	87.5%	88.6%	91.2%	95.8%
△ 組織接着剤	36.2%	39.2%	41.1%	41.5%	40.7%	45.3%	43.5%	48.8%
× 血液凝固第Ⅷ因子（遺伝子組換え製剤を含む）	34.4%	56.7%	50.2%	44.1%	39.9%	39.3%	35.9%	32.5%
● アルブミン	30.1%	33.6%	38.1%	47.5%	50.2%	53.7%	57.0%	63.4%
◇ 抗HBs人免疫グロブリン	3.6%	2.8%	3.4%	3.2%	2.7%	2.6%	2.9%	2.9%

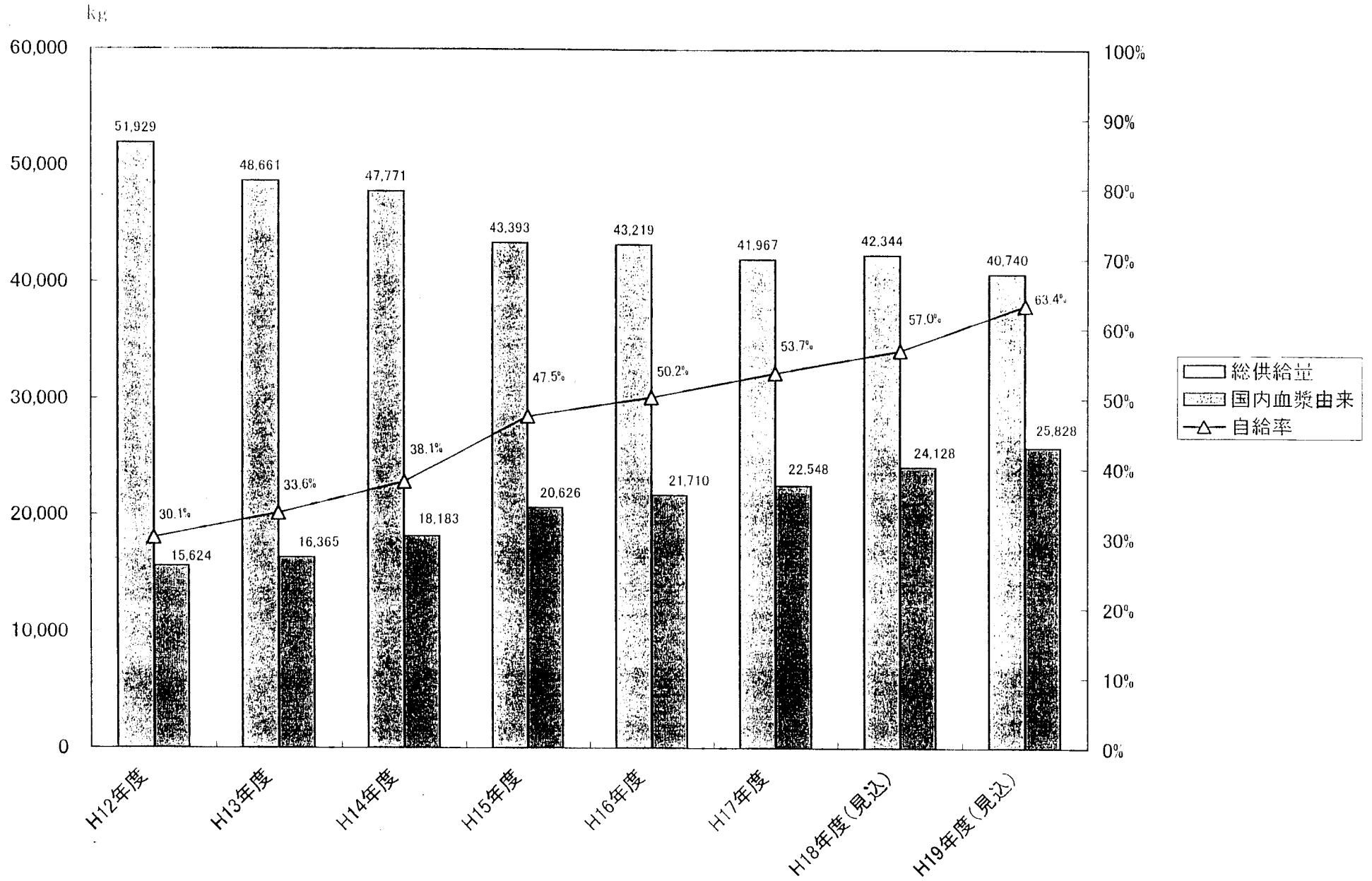
自給率100%のもの

乾燥人フィブリノゲン、血液凝固第Ⅷ因子（血液由来に限る）、乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子（複合体含む）、トロンピン、乾燥濃縮人活性化プロテインC、人ハプトグロビン（見込）

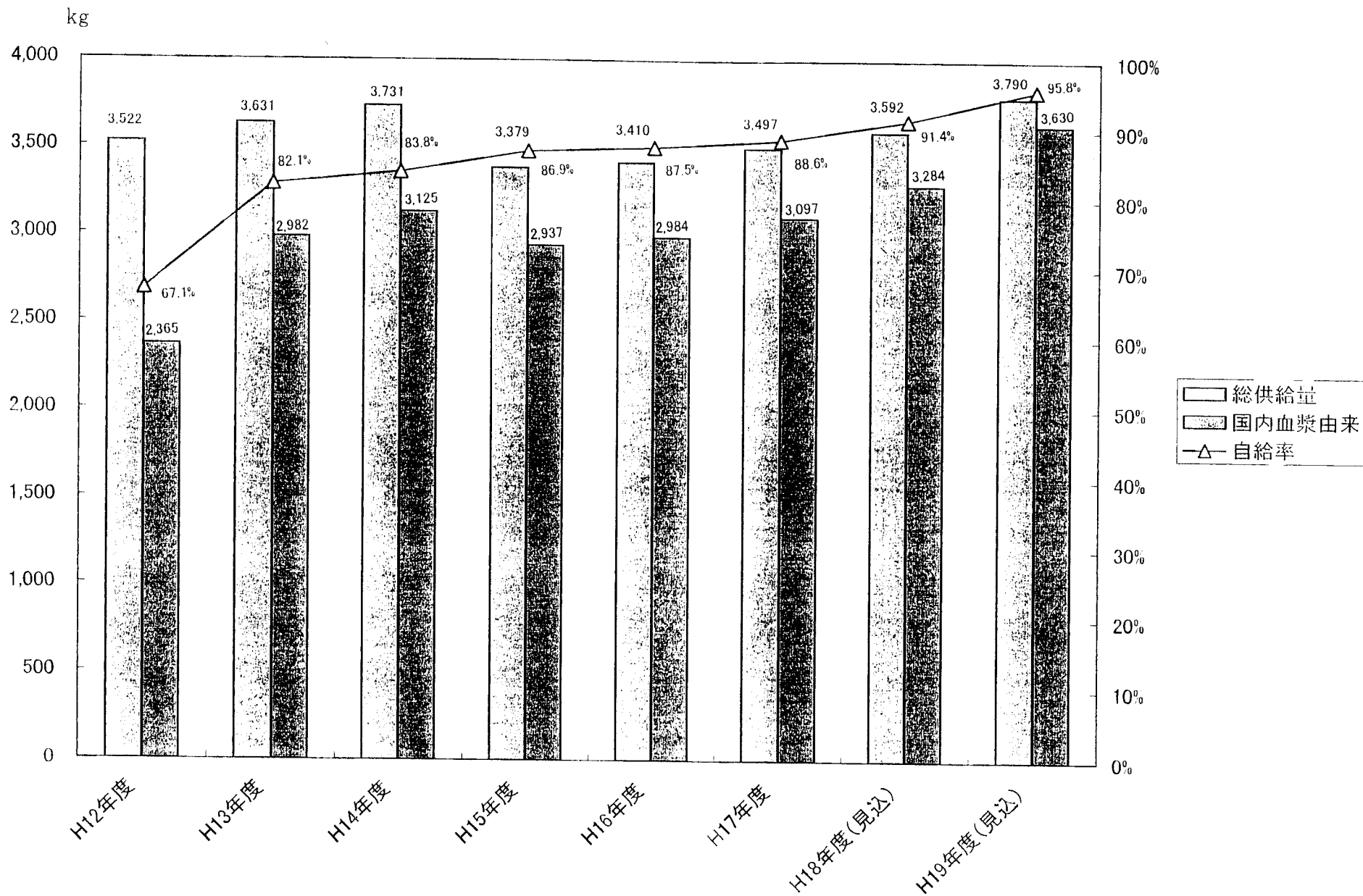
自給率0%のもの

インヒター製剤、乾燥濃縮血液凝固第ⅩⅢ因子、乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン、抗破傷風人免疫グロブリン、乾燥濃縮人C1-インアクチベーター

アルブミン製剤の供給量と自給率

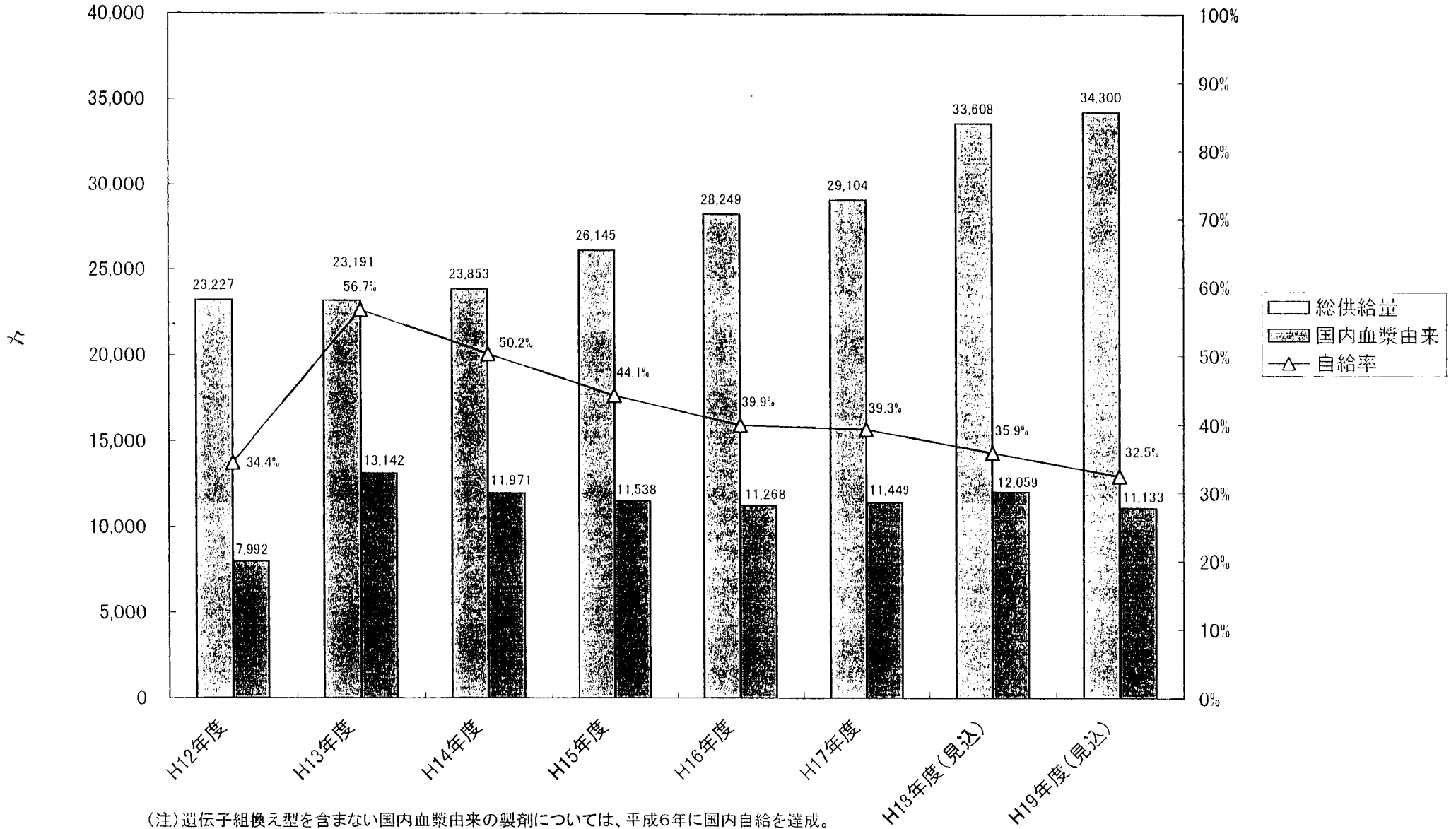


免疫グロブリン製剤の供給量と自給率

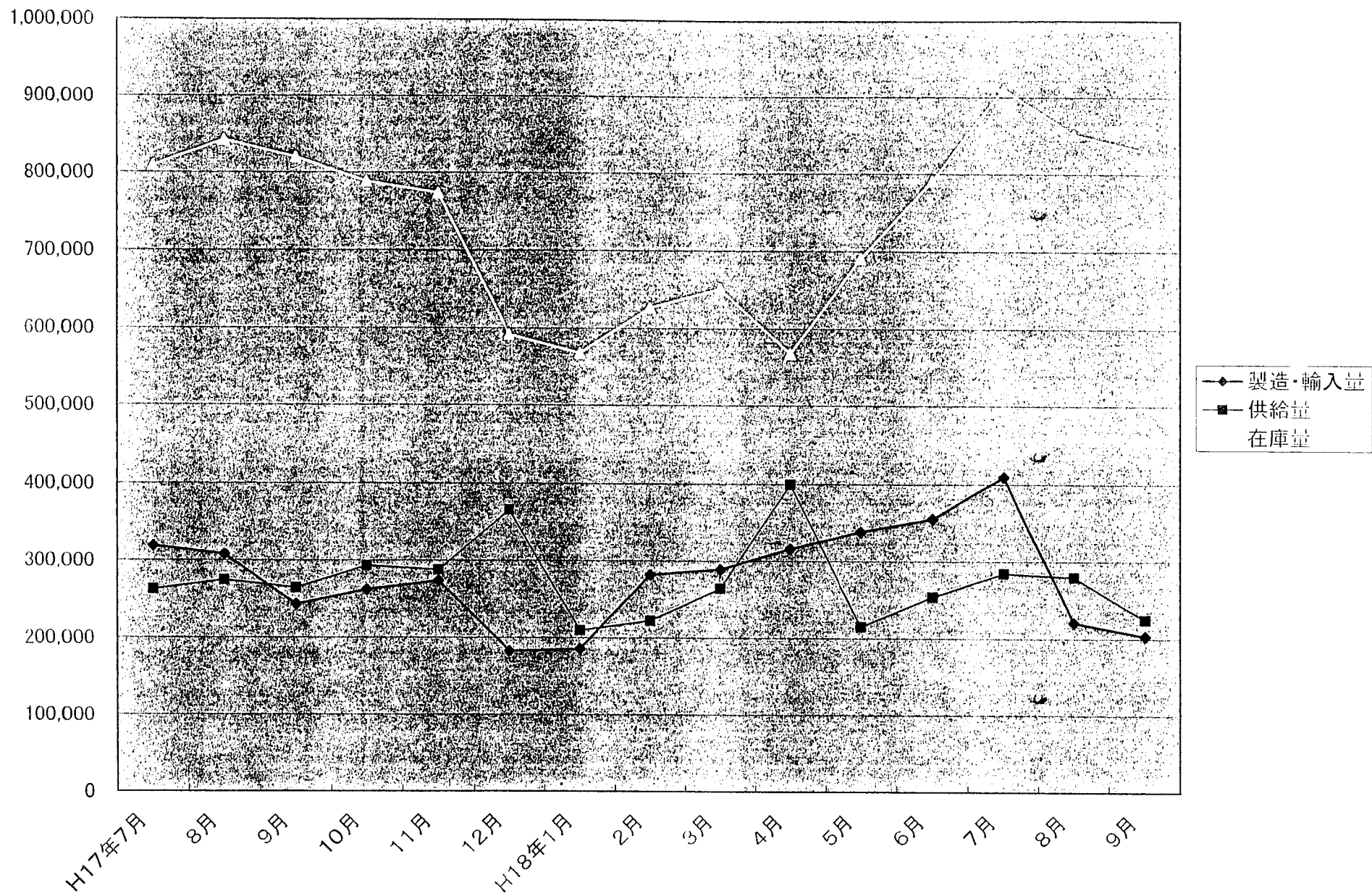


血液凝固第Ⅷ因子製剤の供給量と自給率 (遺伝子組換え型含む)

万単位

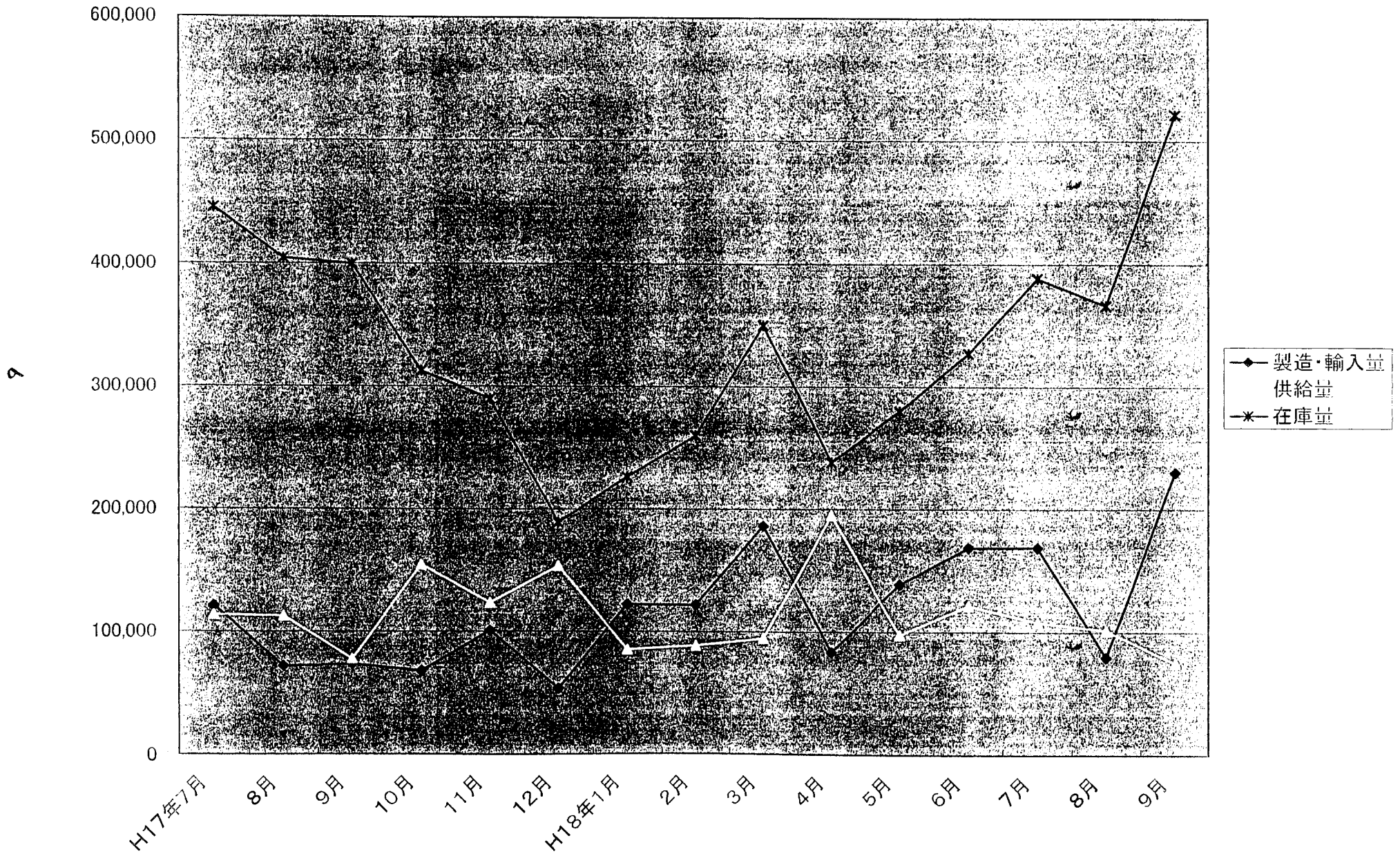


アルブミン製剤の製造量等の推移



5

免疫グロブリン製剤の製造量等の推移



血液凝固第Ⅷ因子製剤の製造量等の推移

